

(様式7)

企画提案書①

<現行計画の課題について>

現行の港区基本計画を分析し、課題や改善点について考察してください。

■計画の構成上の課題と改善点

- ・ 基本計画と実施計画が一体となっており、実質的に「基本構想—基本計画・実施計画」の二層構造となっている。そのため、基本計画・実施計画のボリュームが膨大となっており、全体像や政策—施策—事業のロジックがわかりにくくなっている。また、「施策」レベルの目標等が記載されておらず、「施策」は「計画計上事業」の集合体として表現されているため、目指す方向性もわかりにくい。
→ (改善案) 施策としての目標・位置づけを明確にして、施策レベルのアウトカム指標を設定するとともに、計画計上事業の記述は簡素化する。
- ・ 将来像が明確でない。将来像は基本的には「基本構想」に記載されているものであるものの、基本計画で目指す最上位の目標を表すものであることから、基本計画においても明確に示すべきと考えられる。
→ (改善案) 「当面の区政運営の方向性」の中で、「めざすべき姿」についての言及もあるが、「将来像」として明確に位置付ける。
- ・ 重点課題が、対応する事業計画化事業のリストを計上する形での整理となっており、それぞれの取組がそのように重点課題の解決につながっていくのかがわかりにくい。
→ (改善案) 課題を構造化し、重点的に対応すべきポイントを絞り込むとともに、それを解決するためのロジックモデルを想定し、掲載する事業についてもそのロジックモデルに関連するものに絞り込み、ストーリー付けて説明・記載する。

■計画の策定プロセスにおける課題と改善点

- ・ みなとタウンフォーラムの概要と提言の反映状況については参考資料に掲載されまとめられているが、区民意識調査等については掲載されていない。
→ (改善案) 「計画の背景」として区民ニーズの変化に関する分析に区民意識調査の結果を活用するとともに、調査結果の概要を参考資料に掲載する。

■計画の進行管理上の課題と改善点

- ・ 政策・施策レベルでアウトカム指標が設定されていない。計画計上事業における「活動指標」(アウトプット指標が多い)のうち代表的なものを施策レベルの評価指標として活用しているため、「施策—事業」を「目的—手段」の関係で評価・分析できない状況となっている。
→ (改善案) 政策・施策レベルでアウトカム指標を設定し、事業レベルでのアウトプット指標と区別し、上位のアウトカムに対して、下位のそれぞれの事業・取組がどの程度寄与しているのか、を分析・検討できるようにする。

■今後求められる新たな視点に関する課題と改善点

- ・ SDGs との連動、EBPM の考え方の導入による政策形成の高度化を図る必要がある。
- ・ 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合を図る必要がある。

(様式8)

企画提案書②

<計画構成の提案について>

【様式7】で記載した現行計画の課題や、社会経済情勢の変化、港区を取り巻く現状や課題、区民ニーズの変化等を踏まえ、どのような計画構成とするか提案してください。

■社会経済情勢の変化、区を取り巻く現状や課題、区民ニーズの変化等の現状分析を行いわかりやすく示すとともに、重点課題の視点として追加・見直しを検討する。

- ・ 出入国管理及び難民認定法の改正による外国人人口のさらなる増加【重点課題1に追加】
→多文化共生社会への取組みの一層の推進
- ・ あらゆる世代における人口増の継続と行政需要の拡大【重点課題2に追加】
→特に子ども、高齢者、障害者などの施設・サービス需要の拡大への対応が必要
- ・ 「参画と協働」の意識・取組のさらなる拡大【重点課題3に追加】
→総合支所を中心とした区民本位の区政運営の一層の推進
- ・ 企業との連携、全国との連携のひろがり【重点課題3に追加】
→「港区企業連携推進方針」に基づく企業との連携や、全国各地域との連携の促進
- ・ 大規模な自然災害・都市災害の増加【重点課題4に追加】
→安全・安心なまちづくりの一層の推進、避難所機能の強化
- ・ 東京メトロ虎ノ門ヒルズ駅、JR高輪ゲートウェイ駅、リニア中央新幹線品川駅等の整備【重点課題5に追加】
→新たな街並みの形成、新たなまちの整備の推進
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催【重点課題6に追加】
→「泳げる海、お台場」「文化プログラム」などハード・ソフトのレガシーの活用・継承
- ・ SDGsの意識の高まり・取組の広がり【新たに追加】
→SDGsと連動した持続可能なまちづくりの推進
- ・ ICT、AI等の先端技術の進展【新たに追加】
→AIを活用した外国人向けの情報提供等の行政サービスの高度化、RPAの導入などの促進

■計画構成案

計画構成案	主な内容・改善提案
第1部 総論	
1 基本計画の概要	計画の位置づけ、期間、構成等
2 計画の背景	上記に記した社会経済情勢の変化等を分析・整理
3 区の将来像	基本構想の内容をもとに明確に位置付け
4 計画体系	SDGsとの関係を整理
第2部 重点プロジェクト	下記に記したロジックがイメージしやすい構成を検討
第3部 分野別政策	施策の目標を明確にし、政策・施策にアウトカム指標を設定
第4部 計画の推進	政策・施策レベルでアウトカム指標を設定してPDCAを推進
参考資料	区民意識調査のまとめを追加

■ロジックがイメージできるわかりやすい構成

- ・ 重点プロジェクトについては、目指す姿とアウトカム指標を設定した上で、関連する事業からアウトカムに至るロジックの流れを整理したわかりやすい構成を検討する。

(様式9)

企画提案書③

<SDGsの反映について>

平成27年9月、「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、各自治体や民間企業等はSDGsの実現に向けた取組を進めています。

基本計画にSDGsの理念をどのように反映し、達成へ向けた取組を推進するか、提案してください。

■基本計画へのSDGsの反映パターン

- ・ 基本計画へのSDGsの反映方法については、大きく分けて次の2つのパターンがある。
 - ① SDGsの17のゴールごとに、関連する基本計画の施策や取組をまとめ、対応関係を整理する(例：尼崎市等)。
 - ② 基本計画の施策ごとに、関連するSDGsのゴールやターゲットをまとめ、対応関係を整理する(例：川崎市等)。
- ・ ①のパターンは、一見わかりやすくまとまっているが、対応関係が整理されているだけで、基本計画の取組がSDGsの実現に向けてどのようにつながっていくのかは明確になりにくい。いわゆる「SDGsウォッシュ」(うわべだけのSDGs)となりやすい。
- ・ ②のパターンのように、施策ごとにSDGsとの関連を明確にすることで、その施策がSDGsの何の実現につながるのかを明確にしていくことが重要である。

■施策体系とSDGsの対応関係のマトリクス分析(スクリーニング) ※実績あり

- ・ さらに、施策単位でSDGsのゴールとの対応関係を一覧表で整理することで、どの施策がどのSDGsのゴールに対応しているか、本区の強み・弱みがどこにあるのか、を明確にすることができる(SDGsの視点によるスクリーニング)。
- ・ こうした分析を踏まえて、SDGsの実現に向けて不足する視点を補い、SDGsと歩調を合わせた施策体系になるよう見直しを図ることが重要である。

■SDGsの169のターゲットを踏まえた成果指標の見直し(ローカライズ) ※実績あり

- ・ 施策単位で関連するゴールを整理した上で、その施策に設定する成果指標と、SDGsにおける169のターゲットを比較検討し、成果指標の見直しに活用する。
- ・ ターゲットをそのまま当てはめられるものは成果指標として採用を検討するとともに、そのままは当てはめられないまでも、読み替えたり置き換えたりすることで適用できるものは採用を検討し、SDGsのターゲットと施策の成果指標の統合を図る(ローカライズ指標の設定)。

■SDGsに関する職員研修の実施(提案) ※実績あり

- ・ 基本計画にSDGsの理念を反映し、達成に向けた取組を推進するためには、職員一人ひとりがSDGsに対する意識を高め、基本計画への反映・取組に主体的に関わるようにすることが重要である。
- ・ そこで、SDGsの基礎的な知識に関する座学の研修に加えて、実際の施策体系に対してSDGsのゴールとの対応関係を検討するワークショップ形式での職員研修の実施を提案する。